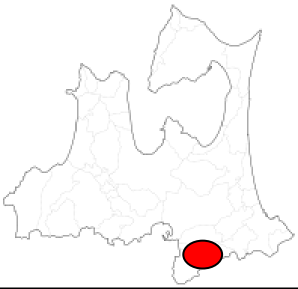
モデル事業名	食文化の伝承と交流による三戸町ふるさと再生事業
活 動 団 体 名	特定非営利活動法人　三戸地域資源発掘会議おっほの会
所属／担当者名	西山　光子（お問合せ先：特定非営利活動法人三戸地域資源発掘会議おっほの会）
連絡先	0179－20－0073　mail：dongu.2000@gmail.com
活　動　地　域	青森県三戸町全域

●　活動地域の概要

三戸町は、青森県最南端岩手県との県境に位置している。南部藩が居城を構え栄えた城下町として宿場町として栄えた町で、古くから三戸郡の中核機能を有した町として栄えてきていた。季候は比較的温暖で冬季の積雪量も少ないため、リンゴ、ブドウ等の果物、そば、うどんなどの特産品 が多く、農業・商業の町として知られている。しかしながら、人口の減少に伴い高齢化が進み、中心の商店街が閑散となり、街自体に活気が見られない状況下にある。

【位置図】



【三戸町中心街全景】

【郷土料理せんべいかやき】

●　活動地域の課題

三戸町は高齢化・人口減少の進行や産業の低迷等課題を抱えており、それらの課題を解決するために、自然・伝統文化等地域資源を生かした取組を官民一体となって実施し、悪循環から好循環に転換することが求められている。

●　活動の内容

・平成２１年度

地域コミュニティの再生と交流・定住人口の拡大を目指し、食文化を中心に地域資源を活用した将来ビジョンづくりを住民参加型で実施するとともに、東京・首都圏における三戸町の物産品販売や郷土料理を食しながら地域間交流を促進する団体や会場を発掘する。

●　活動の成果

・平成２１年度

（活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入）

活動①：「特定非営利活動法人三戸地域資源発掘会議おっほの会マネージメント会議」１月６日１回目実施

・この事業実施に当たり、おっほの会メンバーの意思統一を図ることができたと考える。

・メンバー一個々が、次年度の活動に際しての事業計画を立てることが次回への課題で・メンバーが集まり、原点に立ち返り、地域の課題について、解決についてをあげる中で何を優先すべきかを話し合おう。どこに、目標設定すべきかを改めて意識する。

活動②：「さんのへ活性化ワークショップ開催」１月 17 日１回目開催

・25 人が集まり意見交換を行うことが、地域の合意形成の一歩である。そのため、中間支援組織へワークショップの実施を再委託することで、地域住民から意見を引き出すことができたと考える。
・１回目の WS では、三戸町の良いところ・悪いところ・夢やこう変えれたらいいのにを出して頂いた。
・このワークショップに、青森県立三戸高校の教諭と生徒の参加を得た事は、新たな一歩である。
・三戸町で住民による住民が考えるさんのへ活性化ＷＳは、初めてである。１回目に参加できなかったが、２回目には参加したいという方の申し込みが多数見られている。
・参加者は、一般町民・高校生・観光協会・商工会・スタンプ協会・行政職員・町会県会議員など多種多様の方の参加が得られている。

どのチームでも共通して出ている事は、以下のことが多い。

＊　良いところ：自然が多く景観の良い町・歴史がある町・食べ物が豊富で美味しい町

＊　悪いところ：足引張りが多い・人口が減っている・雇用がない・宣伝が下手・資源が活かされていない

＊　夢・改善点：空施設を活用する・歴史伝統を伝えて行く・農商工連携を進めて行く

各チームで意見を出し合う様子。

Aチーム：稼げる町にしたい　　　Bチーム：若い人にほこれる町にしたい　Cチーム：魅力ある町にしたい

と、各チームが自分達の出した意見から、テーマを掲げ発表する。

活動⑥：「さんのへ活性化プロジェクトチーム」の立ち上げ　1月8日

- さんのへ活性化プロジェクトチーム立ち上げでは、事務局からこの事業の提案書に基づき説明を行い。
  その後、中間支援組織より、プロジェクトチームを立ち上げることの意義や効果についての説明がなされる。
  今後、このチームが「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業を実施していく事を再確認する。
- 当日参加者は7名であったが、参加したいと申し入れ者は他10名いる。その為、再度2回目のWS終了後再説明を行うこととする。
- 地域の中で、「何とかしなければいけない・・」と考えている方たちが多くいることを知る。皆そのきっかけを見つけれずに暗闇の中をさ迷う状態であったが、「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業が起爆剤となるように成功させたいという想いが共有される。

●　今後の課題及び展望

・課題

：さんのへ活性化ワークショップを開催したことが、各新聞紙面に掲載され評価を得る反面、参加しなかった一部の方達からの俗にいう「足引っ張り」が見られている。これは、地域で活動する上での最大の課題である。予測されたことであり、活動④として「パートナーシップで進めるさんのへ活性化意見交換会」の開催を予定している。この活動の中で、如何に多種団体との合意形成を図ることができるかが今後を左右する。

・展望

：事業は、開始したばかりであるが、今年度ゴールまで残り1ヶ月半となる。急ピッチで進める必要があるが、一つ一つの活動を丁寧に行うことが重要である。
今年度は、活動②：「さんのへ活性化ワークショップ開催」・活動④：「パートナーシップで進めるさんのへ活性化意見交換会」の開催・活動⑤：「さんのへ活性化アクションプラン発表会」の実施・地域の合意形成を図る事に重点をおき活動する一方で、次年度への取り組みの準備段階として、活動③：都市間交流のためのヒアリング発掘調査・活動⑦：「おっほの会」と「さんのへ活性化プロジェクトチーム」との合同会議が行われる。そのことを、新聞紙面や町広報誌を活用しながら、また町内会回覧を活用したりしながら、町民へ自律する三戸町をアピールして行きたい。